

HONGO PRESS 01 ...2016.Aug



「現場代理人による一貫体制」。これが本郷工業の大きなテーマ。
この HONGO PRESS では、日々の現場の主役である現場代理人の活躍を
中心に、本郷工業の今を紹介します。

有限会社本郷工業 〒520-0058 滋賀県草津市野路東 6-3-4 ブレジオ 3 1F
TEL.077-566-8200 FAX.077-566-2234 MAIL.hongo@pop.biwako.ne.jp

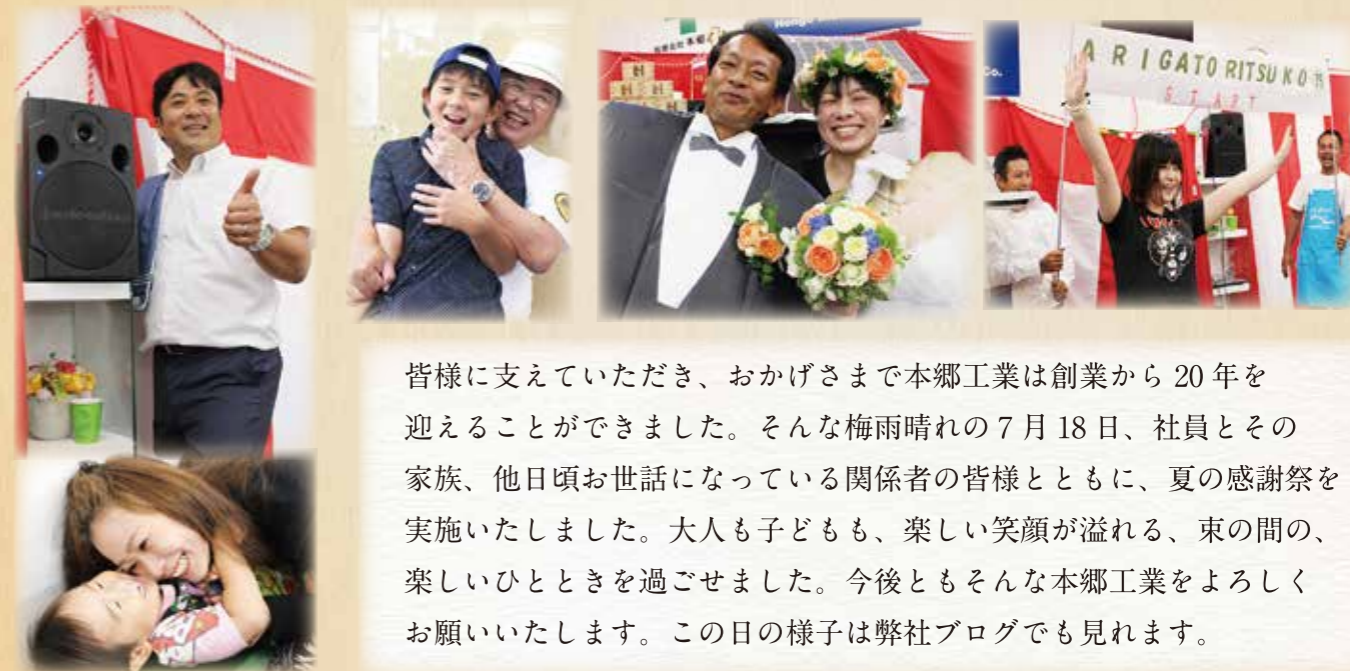


18th Jul

家族にありがとうを込めて…

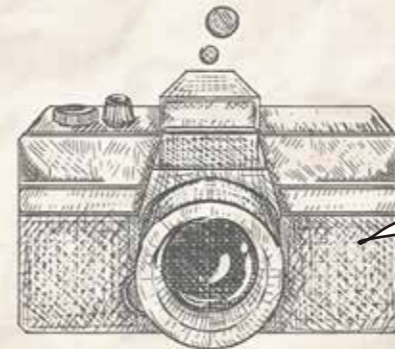
Hongo Industry 20th Anniversary

- 本郷工業創立 20 周年記念スペシャル -



皆様に支えていただき、おかげさまで本郷工業は創業から 20 年を
迎えることができました。そんな梅雨晴れの 7 月 18 日、社員とその
家族、他日頃お世話になっている関係者の皆様とともに、夏の感謝祭を
実施いたしました。大人も子どもも、楽しい笑顔が溢れる、東の間の、
楽しいひとときを過ごせました。今後ともそんな本郷工業をよろしく
お願いいたします。この日の様子は弊社ブログでも見れます。

“SMILE”



あなたの笑顔の写真を、
撮らせてください。

「笑顔になってもらうコンテスト」

開催期間：2016 年 3 月 1 日～12 月 1 日

…「現場がキレイだった」「良い感じで仕事してくれた」「何かと助かった」

「サワヤカだった」「イケメンだった」…なんでもオッケー。

本郷工業によって、素敵な笑顔になれたなら、ぜひ一報ください。

その笑顔、パシャリと撮影させていただきます。コンテスト受賞者には、
素敵な賞品をプレゼント！

▶▶▶ TEL 077-566-8200

HONGO PRESS 01

有限会社本郷工業
現場代理人
松田 晋治 (39歳)

好きな言葉「感謝」



「これ」と決めると、とことん没頭する性質。ミリ単位の職人技を習得する傍ら、趣味のスノーボードにも夢を賭けた。

小さい頃からじっとしているのが嫌いで、「風変わったとしても一度ハマると没頭しがち。地元仲間が近所ですることを横目に、自分は東北の山奥にこもって、冬の間スノーボードの腕をひたすら鍛えたりしていました。自分自身の手による「ものづくり」への興味関心から、定時制高校に通う16歳から水道設備会社に入社。だらしなく汚い現場の作業員のイメージを払拭するような、機敏でスタイリッシュな士身に、自分になりたいと思っていました。始めた当時、30代前半の働き盛りの先輩が、ミリ単位の難しい仕事をじつと合せている姿に憧れ、自分も必死で仕事を覚えていきました。定時制を卒業し、仕事にも慣れてきた頃、青春時代からの大きな趣味であるスノーボードに強くなるのめりこむようになつていました。時間をみつけては福島山奥にもつ、スノーボードの腕を磨いている自分。水道会社というのは年間を通して与えられる仕事量に偏りがあり、年度末を除いては比較的閑暇期にあたります。そんな中、このままずっと水道の仕事を続けていくのかという漠然とした焦りもあり、思い立ったら行動しないと気が済まない自分は、21歳のとき「フロ」になる！と一大決心。

Editor's Voice

…取材を終えたライターよりひとこと

本郷工業での現場代理人としての歴が一番長い松田さん。長時間の取材も終始笑顔で快く応じてくださいました。特技は「誰でも笑顔にすることができること」と、堂々と言えるって、すごいことですね。まさに、「理想の上司」って感じ。家では、優しくてカッコイイお父さんとして素敵なお家庭を築かれている様子もありありと浮かびました。今後も本郷工業の頼れる兄貴として、皆を笑顔で引っ張って行って欲しいです。ありがとうございました。

仕事や悩みとは違うところを目標に向けてリフレッシュさせるようにしています。現場のことは現場を組み立てた本人にしかわからないので、現場については口出しはしません。自分が教育面でしていることといえば、「元気がいい」「悪い顔やあんまりないしたんやっ」と声を掛けてコミュニケーションと、安全面での配慮ぐらいです。本郷工業の「ひとりにはいろんな場所に出て、いろんな人に出会う、自分に自信をつけて欲しい」と思っています。失敗を恐れず、新しい世界にどんどん飛び込んで欲しいです。大失敗したときに社長に助けてもらうように、自分も必ず助けられると思うので…(笑)。

毎日社長と飲んでいたら社長が言っていた。」「土木の雑社が嫌なや、できる人、できる人、これに対して、正當性の対価を払って仕事をうけたい。」。その集大成が今の現場代理人責任者です。自分からやらせ、やっただけになる。この仕組みは、下の立場の人間にとては上を目指そうと、上の立場の人間にとては「止まらなければならない」という双方のモチベーションアップ、維持に繋がる良い仕組みだと思えます。

本郷工業は本当に自由な会社です。良い意味で、ほったらかし(笑)。現場代理人責任者としては、現場の長である自分すべてが任せられるわけですから、お客様に評価していただく以外、物産ももなく、さぼっているかいないか、仕事への熱意は現場を見れば一目瞭然です。だから、一人ひとりが主体的に成長していける環境があるのだと思います。

花火師のように、人々の心に轟く感動的な仕事を、美しく虎視眈々と遂行したい。

12年目の今になっても、現場においては証行錯誤や葛藤の繰り返し、未だに完全に納得のいく仕事ができなかったことはいくらでもあります。自分だからと仕事を任せられるお客様がたまたま増えては喜ぶましたが、もともと信頼されて、気やすく呼ばれてもらえるようになりたいと思っています。

小学生の時に初めて、夏の夜空に打ちあがる花火を見上げて以来、夢は今でも花火師になること。その夢が今の仕事につながり、結びついているのは自分次第ですが、大きな感動を、巧みな技術をもって人々に与える職人としてのプロの仕事。を今後も現場で示していきたいと思っています。



WHAT'S PERSON? SHINJI MATSUDA

- 誕生日.....1977年6月12日(双子座のA型)
- 趣味.....子どもと一緒に遊ぶこと
- 好きな食べ物.....カレー以外なんでも
※CoCo壱のカレーはOK
- 好きな芸人.....ナイツ、千鳥
- タイプの芸能人.....木村文乃
- 長所.....誰とでも友達になれる
- 特技.....人を笑顔にすること



松田家の愛ペット、ウーパールーパー！
その名も「ウーパーマン」。松田さんいわく、
ネーミング的に恥ずかしいそうです。

Family



左から、長男 悠汰(ゆうた)くん(中学2年生)、
長女 来萌(くるめ)ちゃん(小学5年生)、
次男 大知(だいち)くん(中学1年生)。
みんなお父さんに似て、顔立ちハッキリですね～！



最近、韓流が流行ったことは、
お兄さんに長女が誕生したこと
だと、うです！家族が賑やかになって、
楽しそうです。

プロの厳しさを思い知り、再び現場一本へ。
中途半端な立ち位置の自分を見かねて、
土木の道へ誘われる。

それからは雇われ方を下請けのアルバイトに変え、冬季の約半分をスノーボードにかけようになりました。しかし、もちろんプロとして食べていけるような実力はなく、冬場の大半を練習や大会に費やす反面、夏場の半年間は帰ってきて、今までのように稼がないと生活できません。実際、東北に行く、レールの違いも思い知らされ、賞金も出ないような地方大会への出場を繰り返したり、スキー場でインストラクターとしてバイトしていることへの葛藤も次第に大きくなり、ついには23歳のとき、「もうプロの道はあきらめよう」と決断しました。

それから現場に帰ってきましたが、正社員には戻らずその年の7月に結婚し、それを機に「松田設備」の名で個人業を始めました。プロボーダーの道を捨てたことで、気持ち的にはいろいろとふっきて楽になりましたが、水道会社の年間仕事量の偏りのことや、家庭を築く立場になつても、中途半端な気持ちでふらふら持て余している自分を見かねてか、小学生の頃から近所のやんちゃ仲間として仲良くして、仕事を始めた頃から現場で良く会って話をしてきた本郷社長に、「一緒に土木をやらないかと誘われました。26歳の秋でした。

現場には自分の作業すべてが表れる。
できない悔しさから奮い起つて負けない根性。

抵抗はありながらも仕事において幅が広がり、関わる仲間が増えるのは自分にとってやってみる価値はあると、土木をスタートさせました。

10年間の経験により、現場作業自体には慣れていたし、生活リズムや物理的キヤップはありませんでした。ミリ単位の水道配管工事をこなしていたのだから、土木も難なくできるだろうと思つて、なめたのかもしれません。

一つ一つの作業はすべて現場に表れます。自分は汚い現場しか仕上がり、かたや自分より土木経験の豊富な地元同級生は整った美しい現場を完成させていく。

「下手やなあ」「段取り悪いわ」「人使った下手やねん」。劣等感よりもただただ悔しい。

前職の水道会社では、重機にはトップの親方しかほとんど乗りません。それ以外は配管作業がメイン。当然、最初は重機も乗りこなせませんでした。

規模の大きな土木の仕事。
とてつもなく大きな失敗も、誠意で受け止め、
助けてくれる器の大きな環境に支えられた。

そんな現場の苦しみによる葛藤よりも、「絶対抜いてやる」という強い信念の元、黙々と仕事に打ち込めたのは、土木の仕事のやりがい、の大きさや面白さでした。扱う面積が圧倒的に大きく、水道配管作業のように、単純作業ではなく、ほぼほぼの仕事が一日では終わりません。自分の動き一つで、工程が伸びてしまつてもあれば、一日一日の積み重ね、組み立てを忠実に計画通り行えて、ピタッとその通りにできる瞬間は、まさにこの仕事の醍醐味。

昨日まで何もなかったところに、一日で大きな建造物が仕上がり、周りに聞かれるのは、もちろん「フロ」の技。「スゴいなあ」。近所の人からの感嘆の声を直で聞くと、大きな仕事をしているという実感と誇りが生まれました。そんなこんなで年々、年々、ある程度形にできるよつにはなつてきました。常に現場、身の周りをキレイに「ささい」。これは前職を始めた頃から言われていた。当時の親方からの忠告で、今でもしっかりと心がけています。

弱音を吐いたり、弱気になるようなことはありません。それというのも、土木を始めて3年ぐらいの頃、とてつもなく大きな失敗をしてしまったのです。

「もうアカン...」。一生かかってもかせかないほどの失敗だと腹をくくりましたが、そんなときも、絶対なんとかしたと、社長が助けてくれて、話し合っただけでクリアにしてもらったのです。そのとき、社長が言った言葉が、「この世で起きたことは、必ずこの世で解決できる」。この言葉によって、本当に安心したし、実際に救われたことは言うまでもありません。

必ずなんとなかな。
大きな心意気でたくさん失敗して欲しい。

経験とともに知識が増えてくると、若い後輩たちが悩んでいることが小さく見えるし、の余裕もできてきました。現場では、「二期で悩む」「人の使い方で悩む」「できがりで悩む」というのは自分も誰もが通る道。自分も悩んでいただけに、仕方がないけれども無駄に悩んで欲しくないとは思っています。今でこそ、酒の一滴も飲まない社長ですが昔は毎日、早い時間から社長と一緒に飲み、コミュニケーションして、もらっていた経験からも、笑、自分も後輩を誘って、